

天位	
行く船が港に残す盆の月	(石狩市 小玉 富士子)
(注意) 弁天歴史公園通りに句碑を建立	
地位	
春一番膨らむ港翼持つ	(福島町 池田 栖歩)
夏燕飛び交ふ港ターミナル	(せたな町 笹森 君子)
港の子テトラポッドで夕涼み	(訓子府町 小林 昭子)
港内の朝市蝦蛄のゆであがる	(石狩市 日下 久夫)
虹の輪の大きくかかる帰港かな	(札幌市 板本 敦子)
人位	
鮭が好き夕陽が好きで港に生く	(東京都 野村 信廣)
沖待ちの船を灯して海霧港	(小樽市 村上 千代)
帰省子の先ずは港へ一目散	(寿都町 原田た江子)
出港の夫へ日傘を大きく振り	(札幌市 長瀬 春枝)
港外に仮泊の明り台風裡	(小樽市 佐々木順子)
新港の真白き風車風光る	(札幌市 仁和 亮)
片蔭に寄りてみくじを開けてをり	(茨城県 松本 正勝)
朝凧に船を押し出す港かな	(浜頓別町 中場 源二)
青嵐竜骨曝す漁港かな	(室蘭市 井戸 良)
帰省して港の風を浴びてをり	(東京都 大久保 昇)
花菖蒲源氏絵巻の彩を解き	(大阪府 阪口 桂香)
黄砂着る船も港も島々も	(福岡県 赤松 桔梗)
時化三日波の華舞ふ避難港	(札幌市 田森つとむ)
漁船出て港がらんと薄暑光	(浜頓別町 高木 清風)
手づくりの弓に射らるるこどもの日	(登別市 寺島きしを)
佳作	
流氷に口塞がれし港町	(清水町 小原 松雄)
冬ざれの母港に眠る独航船	(福島町 藪内 峽泉)
大漁旗はためく港夏つばめ	(小樽市 木原 槇枝)
老人とむきあふ少女ソーダ水	(登別市 工藤 信樹)
台風をさけて寄りそふ舫ひ船	(石狩市 菊地 すえ)
語り継ぐ石狩油田草いちご	(札幌市 猪俣 総恵)
出港の波音たたむ星月夜	(札幌市 星 徳男)
拳骨の味は師の味昭和の日	(歌志内市 高瀬 仁孝)
つくし生ふ地のつぶやきと思ふまで	(日高町 遠藤 孝明)
秋惜しむ空に富士見る焼津港	(東京都 伊澤 朝子)
出港を送る母子の夏帽子	(浜頓別町 綱淵 俊子)
水揚げのこゑの飛び交ふ冬港	(札幌市 板本 敦子)
海峡を渡りて届く新茶の香	(北見市 田中美津子)
船が来る期待が廻す白日傘	(東京都 大久保さく子)
赴任地は港いく度老の春	(室蘭市 中畑 幸江)
冬囲いはずし港の灯もこぼれ	(羽幌町 小野 天翼)
春暁の漁港賑ふ耀りの声	(木古内町 竹 公星子)
右雄冬左積丹冬落暉	(札幌市 田森つとむ)
凍港を割って上架の船下ろす	(浜頓別町 高橋 北秋)
西瓜切る家族の顔の真中に	(今金町 辻 知子)
【選者】	
松倉 ゆずる 氏 (俳誌アカシヤ主宰)	
小西 龍馬 氏 (北海道俳句協会顧問)	